

まつむし音楽堂 夏の音楽会

# 「日本の軍歌」考

8月19日(土) 15:00(開演)

(開場 14:30)

入場料：2000円 (予約不要、当日券のみ)

会場：まつむし音楽堂 Aスタジオ (2F)

(大阪メトロ谷町線「あべの」駅下車徒歩10分、阪堺電車上町線「松虫」  
駅下車すぐ。電話 06-3324-0559)

演奏曲目：

軍艦行進曲、愛国行進曲、

愛国の花、長崎の鐘、露営の歌、

海ゆかば、六甲おろし (阪神タイガースの歌)、

月月火水木金金、ほか

●よろしければ、ごいっしょに唄いませんか？

演奏：久保慶子 (Vo、Pf)

辻 俊次 (Drms)、和田高幸 (Vo)

●当日、午後1時から「まつむし音楽堂合同慰霊祭」（共催 BAL、日本ニュートラルポイント研究所）が行われます。安倍晴明神社から禰宜が出仕、故人のお名前を読み上げます。ご都合がよろしければこちらにもご参加ください。

合同慰霊祭 13:00～（会場は「まつむし音楽堂」1F） なお『軍歌考』は 15:00 開演の予定です。

「軍歌」考 開催にあたって 和田高幸（まつむし音楽堂代表）

半世紀ほど「前のことですが、豪州の一大学生であったわたしは日本へ帰国する途上、マレーシアの友人宅へ立ち寄りしました。夕食後にマレー人であるその友人の叔父から聞いた話ですが、戦時中に日本兵として従軍した彼は、マレーシア（当時はイギリスの植民地）が独立できたのは日本の教育（気合の入れ方、語学など）のおかげであると断言しました。これでマレーシアの独立記念日に「愛国の花」（古関裕而作曲）や「愛国行進曲」（瀬戸口藤吉作曲）など日本の歌が歌われる理由（わけ）が、わかりました。もうひとつ、ロータリークラブの交流行事）で豪州の小さな町 COLLIE（コリー）へ滞在したときのこと、日本軍と戦闘したホームステイ先の主人は、最初は口をきいてくれませんでした。しかしパースの大学に戻る日には打ち解けてハグしたのを憶えています。最近、かつての戦闘地の砂が日本の海に撒かれたという記事を目にしましたが、戦時中の「思い」は時間や国境を超えるのですね。そんなわけで、この夏、日本の「軍歌」の演奏会をやろうと思いついたのです。

数年前、歌劇「ルル」（F・クーラウ作曲＝インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会主催）の演奏会でのこと。舞台ではデンマーク国王を称える歌（通常デンマークの第二国歌とされている）が響いた途端、欧米からの参加者たちはすべて起立したのです。（しかし起立した日本人は皆無で、わずかに周囲をみわたす人がいました）。演奏会のスタートに国歌を演奏するのは、欧米では当然のことですが、他国の国歌を聞けば（それが第二国歌であれ）起立する外国人たちのマナーに学ぶ必要があるのではないのでしょうか。

ともあれ、耳に心地よい軍歌は「元気」が出ます。かつてパチンコ店の店先では「軍艦マーチ」が威勢よく鳴っていたのを思い出しましたが、大伴家持（おおとものやかもち）の歌詞をもとに信時潔（のぶとききよし）が作曲した「海ゆかば」を耳にすることはなくなりました。「おおきみの 邊（へ）にこそしなめ かへりみはせじ・・・」。

おおきみとは「天皇陛下」のことではありません。当時は女王であったかもしれませんが、明らかに身近にいた「女性」（母親や女房）のことでしょう。男性は桜花のように散るのを潔くしました。最後は母性に回帰、そばに眠る（死ぬ）ことを望んだのです。わたしは「国」のことをかんがえる一人の人間にすぎませんが、国歌「君が代」や戦時中の「海ゆかば」など、歌詞に抵抗を感じる人がいるのが腑に落ちません。時代背景により人々の心も変化するのは当然ですが、自由な歌心をもつことは「民主主義」の精神から外れていないと思いますが、どうでしょう＝。